

### Ⅲ B班の研究

#### 研究テーマ

～子供たちの「確かな学力の向上」を目指し、  
「個に応じたきめ細かな学習指導」を実践  
するための基礎研究～

#### 1 研究の趣旨

これまで国語・数学・英語を中心に実施した  
学力調査は、集団の平均値に基づく調査・分析  
がほとんどであった。しかしながら、「学習の  
つまずき」や「学習への取り組み方」は、子供  
たち一人一人の学力到達度や学習スタイルなど  
によって大きく異なると考えた。このことを数  
学を中心とした学力到達度試験と学習基礎調査  
を実施して具体的・数量的に検証した。さらに、  
各教科における基礎的・基本的な学力の向上を  
図るための調査・分析の方法や学習指導の在り  
方についても研究した。

一方、「IEA国際数学・理科教育調査」や  
「OECD生徒の学習到達度調査」(PISA)  
の結果によれば、我が国の子供たちは各教科の  
基礎的・基本的な知識の習熟レベルは国際的に  
見てトップクラスであるにもかかわらず、実際  
の問題解決場面における問題解決能力は必ずし  
も高いとは言えないことが明らかになった。そ  
こで、それぞれの教科における基礎的・基本的  
な学力の向上にとどまらず、問題解決場面で生  
きて働く知識を身に付けさせるための学習指導  
の在り方についても考察した。

#### 2 調査対象

本県の2つの中学校の3年生 437名

#### 3 研究の内容

次の3つの研究項目に分けて、研究を行った。

##### (1) これまでの学力到達度調査結果の検証

平均値を基にしたこれまでの本県学力到達度  
調査結果によって、つまずく生徒が多いと指摘

された数学や国語の学習項目の中から代表的な  
項目を選び出し、その項目についての学力到達  
度調査問題を作成し、学力到達度ごとの学力の  
実態を明らかにした。

さらに、数学、国語、英語の3教科それぞれ  
について生徒の学習姿勢を調査し、学力到達度  
の違いによる学習姿勢の違いを明らかにした。

##### (2) 問題解決能力の育成のための基礎研究

PISAの調査問題を参考にしながら、研究  
項目1で作成した学力到達度調査問題と同じ学  
習項目で問題解決能力を測るための試験(総合  
的・発展的な学力試験)問題を作成し、学力到  
達度ごとの問題解決能力の違いを明らかにした。

さらに、この試験の成績による学力到達度ご  
との学習姿勢と、これまで本県で一般的に実施  
されてきた試験の成績による学力到達度ごとの  
学習姿勢の違いを明らかにした。

##### (3) 学習基礎調査結果の分析を基にした学習指 導改善

I「生活習慣」、II「自分自身」、III「学習へ  
の意欲・姿勢」、IV「学習スタイル」、V「学習  
環境」の5領域について各10項目、計50項目の  
学習基礎調査を実施した。

分析は、学力到達度によって分けた5つの学  
力層と学習基礎調査の結果によって分けた3つ  
の層をクロスさせ、調査対象生徒を15グループ  
に分類し、各グループの特性を明らかにした。

併せて、それぞれのグループに対する学習指  
導上の支援の在り方と留意点等についても考察  
した。

これらの3つの項目による研究を通して、  
「確かな学力の向上」を図るための学習指導の  
在り方について研究を進めた。なお、2つの班  
の研究は研究途上であり、詳細については、来  
年度初めに公表する予定である。